令和４年度

「大学生の力を活用した集落復興支援事業」

伊達市富成地区　実施報告書

東海大学スチューデントアチーブメントセンター

3.11 生活復興支援プロジェクト

目次

1.　3.11 生活復興支援プロジェクトについて
1-1.　3.11 生活復興支援プロジェクトの概要
1-2.　3.11 生活復興支援プロジェクトの東日本大震災の被災地における取り組み
1-3.　「大学生の力を活用した集落復興支援事業」への参加経緯

2.　富成地区について
2-1.　富成地区の概要
2-2.　富成地区の主な特徴
2-3.　富成地区の現状

3.　今年度の活動内容について
3-1.　オンライン交流会
3-2.　現地調査

4.　調査結果
4-1.　現地訪問前後における印象の変化
4-2.　捉えた課題
4-3.　1 年間の活動の総評

5.　富成地区活性化案について

6.　今後の取り組みについて

1.　3.11 生活復興支援プロジェクトについて

1-1.　3.11 生活復興支援プロジェクトの概要

東海大学スチューデントアチーブメントセンター3.11 生活復興支援プロジェクト(以下、本プロジェクト)は、東海大学スチューデントアチーブメントセンターが管轄する課外活動の 1 つであるチャレンジプロジェクトに所属している学生団体である。

チャレンジプロジェクトは、部活動やサークルとは異なる位置づけである。東海大学では、4 つの力(自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力)を身に着け、社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいるが、チャレンジプロジェクトはそれを体現する活動である。ものつくり、国際、ボランティアなど、様々なテーマや企画において、学生が主体となり、社会貢献を目指すとともに、4 つの力を軸とした学びを通じて、学生自身の成長を果たしていく。プロジェクト活動の採択や活動などには一定の条件があるものの、大学からの資金面などでの援助もあるため、社会貢献や学びを通じた成長をより実感できる活動であるといえる。

本プロジェクトは、2011 年に発生した東日本大震災に関する復興支援活動を行うことを目的に活動しており、2011 年の発災から今日に至るまで継続して活動を行っている。本プロジェクトは、2011 年の発足以来、東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市三陸町越喜来泊地区(以下、泊地区)および宮城県石巻市北上町十三浜相川地区・小指地区(以下、相川地区・小指地区)を中心に活動を展開している。これまで、集落の方々が集える場所を作るための「どんぐりハウス」と呼ばれる集会所の整備、地域住民や子どもたちを対象に、地域内の交流促進や地域活性化などを目的としたイベントの開催などを実施してきた。また、本プロジェクトの活動拠点である東海大学湘南校舎(神奈川県平塚市)およびその周辺を中心に、本プロジェクトの活動や東日本大震災、東北の魅力、防災などについて伝えることを目的にイベントへの出展なども行っている。近年はコロナ禍などによる環境変化などもあり、SNS などを活用した広報活動、東日本大震災の風化防止に向けた震災学習や記憶伝承の取り組み、防災の重要性を伝える防災啓発活動などにも取り組んでいる。

1-2.　3.11 生活復興支援プロジェクトの東日本大震災の被災地における取り組み

本プロジェクトの東日本大震災の被災地における取り組みについて紹介する。ここでは泊地区および相川地区・小指地区での取り組みを中心に紹介する。

最初は、「どんぐりハウス」である。これは集落の方々が集まれる集会所の役割を持つ施設である。震災により集落の方々が集まれる場所がないという課題に対し、当時、本プロジェクトに所属していた工学部建築学科のメンバーが中心となり、木材などの資材搬入から建築までを外部団体との協力も得ながら実施した。建築に当たっては、作業が思うように進まない中、それを見かねた地域住民の皆さんが協力してくれたこともあり、地域との協働による活動の大切さに気付いたというエピソードもある。現在、泊地区では「結っ小屋」、相川地区・小指地区では「小指観音堂」との呼称に改め、使用している。

相川地区・小指地区に建設したどんぐりハウス(現：小指観音堂)

次に、イベント開催である。少子高齢化や震災による地域コミュニティの希薄化などといった課題に対し、本プロジェクトが主催してのイベントを実施してきた。泊地区ではこれまでに「夏のこども教室」、「食まつり」などを開催した。これらのイベントは地域住民間の交流や子どもたちが地域に愛着を持ってもらうことを目的としており、地元の竹を使った工作や流しそうめん、そば打ち体験などを行った。相川地区・小指地区ではこれまでに「小指大縁日」、「春祈祷」などを開催した。「小指大縁日」は地域住民間の交流や子どもたちが地域に愛着を持ってもらうことを目的にしており、縁日をイメージさせる遊びやバーベキューなどを行った。「春祈祷」は、地域の伝統行事であり、家内安全、無病息災を祈る家庭祭祀として行われている。春祈祷の実施時には、実際に本プロジェクトメンバーが獅子舞に入り、各家庭を巡回させていただいた。

小指大縁日で竹を使った水鉄砲を製作している様子

2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大などの影響により、現地訪問は実施していない。2022 年度は東北への訪問実施に目途が立ち、約 3 年ぶりに現地訪問が実現した。現在は、泊地区および相川地区・小指地区での今後の活動について検討しているほか、これまでの活動だけにとらわれない新たな取り組みの一環として、活動範囲を被災地

全体に拡大し、東日本大震災の伝承館や震災遺構などを訪問し、震災学習への取り組みなどを実施している。

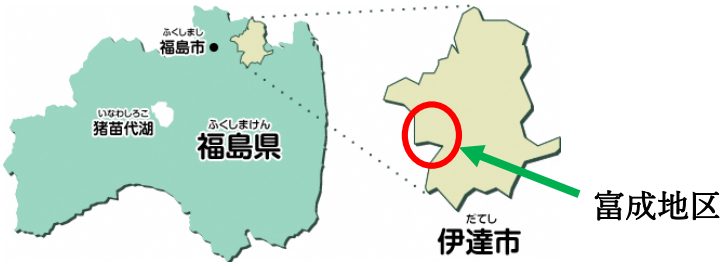
1-3.　「大学生の力を活用した集落復興支援事業」への参加経緯

本プロジェクトは2011年の東日本大震災発生以来、泊地区および相川地区・小指地区を中心に活動を展開してきた。しかし、新型コロナ感染拡大などにより、2020年度以降、対面での活動が制限され、本プロジェクトも活動を大きく制限せざるを得ない状況となってしまった。そのため、東北訪問やイベント参加などといった活動はほとんど行うことができなかった。そのような現状もあり、プロジェクト活動の停滞やメンバーのモチベーション低下などといった課題が浮き彫りとなった。また、東日本大震災の発生から11年以上が経過し、震災の風化が懸念されているほか、地震や台風といった災害が全国各地で頻発している中、防災の重要性を発信することも必要とされている。このように本プロジェクトは組織内外において多くの課題や厳しい現状を抱えてしまった。しかし、2022年度はこのような状況に対する危機感やコロナ関連の規制緩和などもあり、対面での活動実施や東北訪問など、これまで実現できなかった活動の再開などを果たすことができている。しかし、復興支援活動に求められている役割やニーズはコロナ禍や震災の発生からの時間経過なども相まって、以前とは変化している。そのため、新しい取り組みにも挑戦し、変化していく復興支援活動のニーズに合わせた活動の必要性も浮き彫りとなった。そこで、本プロジェクトの新たな取り組みの一つとして、東日本大震災の被災地である福島県での活動展開を検討していた。本プロジェクトはこれまで福島県での活動を実施したことはなかったが、本プロジェクトの活性化や東日本大震災などについてより深く理解するという観点からは大変意義深い挑戦であると判断した。福島県での活動について検討をしていたところ、福島県が主催する「大学生の力を活用した集落復興支援事業」(以下、本事業)の存在を知った。本プロジェクトはこれまで被災地の集落での活動を展開してきた中、本事業への取り組みはこれまでの本プロジェクトの取り組みを活かせるものが多く、集落の活性化だけでなく、本プロジェクトの活性化や福島県での活動基盤の整備にも寄与するものと判断し、本プロジェクトメンバーや大学関係者と相談したうえ、参加を決定した。

2.　富成地区について

2-1.　富成地区の概要

本プロジェクトは、伊達市富成地区での調査を実施することとなった。伊達市は福島県の中通り地域に位置する人口約57,000人の市である。伊達市は、県庁所在地である福島市や相馬市、宮城県白石市などと隣接している。富成地区は伊達市の南西部、旧保原町では南部に位置している人口約1,000人の集落である。



福島県伊達市富成地区の所在地（福島県伊達市 HP より）

2-2.　富成地区の特徴

富成地区の特徴として、交通アクセスの良さと盛んな農業が挙げられる。まず、交通アクセスの良さについてである。富成地区は福島市と隣接していることや、周辺には東北中央自動車道の伊達中央 IC、霊山 IC があることから、車でのアクセスは良好と言える。福島駅からも車で約 30 分である。しかし、バスや電車といった公共交通機関はほとんどなく、最寄り駅である阿武隈急行線上保原駅からは徒歩 30 分以上かかるため、車での移動はほぼ必須と言える。

富成地区周辺地図（国土地理院の地図を加工して作成）

次に、盛んな農業である。富成地区は山林が多く、自然に恵まれた場所である。昔は養蚕やコメ作りなどが盛んであったが、現在はぶどうやプラム、柿といった野菜・果物、さらには菊などの花作りが盛んであり、これらの農産物は地域内外から高い評価を得ている。

伊達市特産のあんぽ柿

2-3.　富成地区の現状

富成地区は交通アクセスの良さや豊かな農業など、良い面があるものの、少子高齢化を始めとした多くの課題を抱えている。富成地区の高齢化は約 40%であり、農業従事者の減少、空き家や耕作放棄地の増加、近所付き合いの減少などが浮き彫りとなっている。また、2019 年には富成小学校が閉校となり、子どもたちの賑わいもなくなってしまった。地域の過疎化も進行し、地域の衰退が懸念されている。富成地区での地域活動は富成地域まちづくり振興会が中心となって行っているが、地域の現状もあり、若者の力を活用して地域を元気にしていく必要があると考えている。

3.　今年度の活動内容について

3-1.　オンライン交流会

2022 年 9 月 21 日に本プロジェクトと富成地区による「大学生の力を活用した集落復興支援事業」への取り組みのスタートとして、Zoom を活用したオンライン交流会を実施した。今回のオンライン交流会は、本プロジェクトメンバーと富成地区の皆さんがオンライン形式ではあるものの、初めて顔を合わせて交流する場となった。当日は、本プロジェクトメンバーは各自の自宅から、富成地区の皆さんは富成地区交流館に集合し、テレビ等の画面を介して参加した。当日は本プロジェクトのプロジェクトリーダーである後藤が司会を担当し、オンライン交流会の進行を進めた。オンライン交流会で実施した内容は下記の通りである。

① <u>各団体代表者よりご挨拶</u>

本プロジェクトからはプロジェクトリーダーの後藤より、富成地区からは富成地域まちづくり振興会(以下、振興会）会長の湯田さんよりそれぞれご挨拶を申し上げた。

② <u>各団体紹介</u>

本プロジェクトからは、プロジェクトリーダーの後藤が東海大学および本プロジェクトについて、富成地区からは振興会 事務局長の二階堂さんが伊達市および富成地区について、スライド資料を用いながら紹介した。

③ <u>富成地区の課題についての意見交換</u>

富成地区在住の皆さんと、地域が抱える課題や悩み事などについての意見交換を行った。富成地区在住の皆さんからは、日常生活や地域での活動などに対して、いくつかの課題や悩み事、懸念事項などについて意見が挙がった。

④ <u>まとめと今後のスケジュールについて</u>

本プロジェクトの後藤より、今回初めて実施したオンライン交流会について総評を述べたのち、今後のスケジュールなどについての説明があった。また、振興会の湯田さんからは、富成アイス(ジェラート)が開発中であることが紹介された。

冒頭あいさつの様子

伊達市の紹介をしている様子

3-2. 現地調査

2022 年 11 月 12 日～13 日に富成地区で現地調査を実施した。富成地区に本プロジェクトが初めて訪問し、現地の皆さまとの顔合わせを始め、打合せ、地域視察、地域住民の皆さまとの意見交換等を通じて、富成地区の理解をより深めるとともに、地域が置かれている現状や課題を認識し、得られた課題に対する提案の考案や次年度以降に予定している実証活動に繋がる活動を行うことを目的に実施した。実施概要および実施内容は下記のとおりである。なお、現地調査の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染対策を施した上で実施した。

○実施概要

① 日時：2022 年 11 月 12 日(土)～13 日(日)

② 参加者：下記の通りである。

・東海大学スチューデントアチーブメントセンター3.11 生活復興支援プロジェクト

プロジェクトリーダーの後藤を始めとした本プロジェクトメンバー4 名および本プロジ

ェクトアドバイザーの浅井先生

・富成地区まちづくり振興会

振興会会長の湯田さんを始めとした振興会役員４名

※このほか、富成地区在住の皆さんなども参加

③　スケジュール：下記の通りである。

・11 月 12 日(土)　調査１日目

13:00	富成地区交流館集合(現地調査１日目開始)
13:00～	顔合わせ・打合せ・特産品試食会実施
14:30～	地域散策実施
17:00	現地調査１日目終了・解散

・11 月 13 日(日)　調査２日目

9:00	富成地区交流館集合(現地調査２日目開始)
9:30～	意見交換会実施
11:00～	昼食(芋煮会)
13:00～	あんぽ柿生産現場体験実施
14:30～	打合せ・反省会実施
15:45	現地調査２日目終了・解散

○実施内容

～11 月 12 日(調査１日目)～

①　<u>顔合わせ・打合せ・特産品試食会(富成地区交流館で実施)</u>

本プロジェクトと富成地域まちづくり振興会の皆さんによる顔合わせを行い、改めて自己紹介や現地調査への意気込み・期待などについてのお話をしたのち、振興会の皆さんからは、富成地区についての紹介や地域の現状、これまでの取り組み内容などについて、資料を用いながらお話をしていただいた。その後、富成地区の特産品として、ジェラートとぶどう・シャインマスカットの試食会を実施した。

②　<u>地域散策(富成地区各所で実施)</u>

振興会の皆さんのご案内の元、富成地区のいくつかの場所を散策した。花見山つつじ自然公園では、自然の壮大さや公園から見ることができる伊達市中心部などの景色を堪能した。高福寺並びに諏訪神社ではその地の歴史や自然の景観などに触れ、地域の観光スポットとしてぜひ訪れたい場所であると感じた。三浦謹之助博士の生家では、著名人の医療の診察を担当するなど、偉大な功績を残された三浦博士の歴史や魅力に触れた。

今回の現地調査の主な拠点として使用した富成地区交流館

東海大学と富成地区による顔合わせ・打合せの様子

特産品試食会で試食したジェラートとぶどう・シャインマスカット

地域散策で訪れた花見山つつじ自然公園

地域散策で訪れた三浦謹之助博士の生家

～11 月 13 日(調査 2 日目)～

① <u>大学生と地域住民による意見交換会(富成地区交流館で実施)</u>

調査 1 日目の参加者に加え、富成地区在住の皆さんなどと合同で意見交換会を実施した。当日は 3 グループに分かれ、富成地区の現状や課題、日常生活をしている中で感じた課題や悩み事などについて意見交換を行った。地域住民の皆さんの普段の生活やお仕事など、雑談を行う様子も見られ、和やかな雰囲気であった。

② <u>昼食(富成地区交流館で実施)</u>

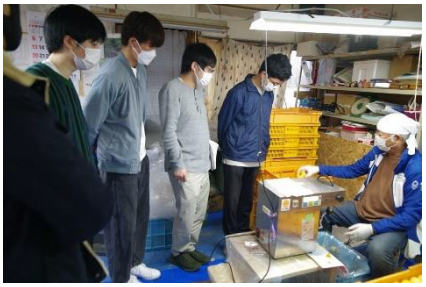
意見交換会の参加者の皆さんで東北の郷土料理である芋煮を楽しんだ。

③ <u>あんぽ柿生産現場体験(伊達市保原町柱田のあんぽ柿生産農家様で実施)</u>

伊達市特産のあんぽ柿を生産している農家様を訪問し、あんぽ柿の生産現場の見学をしたのち、本プロジェクトメンバーによる柿の皮むき体験(機械使用)や柿をひもに通す作業などを実施した。

意見交換会の様子

昼食で提供された芋煮とおにぎり



あんぽ柿生産農家での現場体験の様子①

あんぽ柿生産農家での現場体験の様子②

4.　調査結果

4-1.　現地訪問前後における印象の変化

まず、富成地区を訪問する前後における富成地区に対する印象の変化についてである。最初は名前も聞いたことがなく、どのような地域なのかイメージすら湧かない状態であった。2022 年 9 月にはオンライン交流会を開催し、地域住民の皆さんとオンライン上で交流を行ったが、全体的に地域住民の皆さんが堅苦しいように感じられた。また、多くの課題などについて意見が挙げられたことから、様々な課題を抱えている地域であるとの印象を受けた。しかし、2022 年 11 月に現地調査を行った結果、そのような印象は大きく変わった。初めて訪問する場所であるため、地域の皆さんが受け入れてくれるのか、歓迎してくれるのかと不安になっていたが、いざ現地に行くと、振興会の皆さんを始め、現地調査でお会いした皆さんからは温かく歓迎していただき、和やかな雰囲気の中で交流や意見交換などを行うことができた。また、多くの課題があることは事実であるが、自然や農業など、富成地区には多くの魅力があり、訪れてみたい、何か体験をしたいと思うような要素があることを感じることができた。地域に対する印象は現地に行かなければ本当の意味で実感することができないと思い知らされた。

4-2.　捉えた課題

本プロジェクトと富成地区によって実施したオンライン交流会および現地調査を通じて、多くの課題があることを発見した。主な課題としては下記のものが挙げられた。

住民の地域活動に対する興味・関心や参加率が低い。
東日本大震災による原発事故の影響で、農業などへの悪影響が発生した。
高齢化の進行により、移動が困難になる、地域活動に参加できないなど、様々な活動への影響が発生した。また、近所での助け合いにも限度が来ている。
富成小学校の閉校などの影響により、若い人の活気がなくなってしまった。
スマートフォンなどのデジタル機器をうまく使いこなせない住民が多くいる。
地域が困難な状況にあるため、地域の魅力づくりや活気の向上が必要である。

本プロジェクトは、富成地区の皆さんとの交流や活動を通じて、様々な課題や現状に触れたが、特に課題だと感じたのは、地域住民の皆さんが地域での活動にあまり興味・関心を持っていないということである。高齢化などにより、活動への参加が難しくなった住民もいるが、地域活性化、そして多くの人に富成地区の魅力や素晴らしさを伝えるためには地域住民の皆さんが積極的に地域活動に参加し、活気と魅力に溢れる地域づくりを目指す必要があるのではないかと考えられる。

4-3.　1 年間の活動の総評

今年度の本プロジェクトと富成地区による実態調査の取り組みを通じて、本プロジェクト、富成地区の双方が現状に対する危機感に対し、新たな取り組みに挑戦し、交流を深め、課題解決と活性化に向けた歩みを進めることができた。これまで関わりのない人や地域と協働で活動をするにあたり、不安や心配もあったが、無事に活動を進めることができ、とても良かった。

オンライン交流会では、初めて本プロジェクトと富成地区が交流し、自己紹介や意見交換などを行ったが、お互いについて理解を深め、今後の活動をより円滑に進めるための土台作りをすることができた。交流会を通じて、これまで知らなかったお互いの取り組みや現状、人柄や雰囲気などについて知ることができたため、有意義な時間にすることができた。

現地調査では、本プロジェクト初の福島県・富成地区訪問ということもあり、慣れないところもあったが、富成地区の皆さんには温かく歓迎していただき、無事に一連の調査を終えることができた。2 日間という短い時間ではあったが、実際に富成地区を訪れ、地域の現状を自らの目で確かめるとともに、地域住民の皆さんから様々なお話を聞くことができた。また、芋煮会やあんぽ柿の生産現場体験など、地域ならではの文化に触れることができ、地域の魅力を感じることができた。2 日間の調査では、富成地区の現状や課題を発見することができ、今後本プロジェクトが地域でどのような活動を行い、どのような価値を提供していくのかを考える材料づくりもできた。多くの課題や厳しい現状を感じた一方で、富成地区の魅力や努力も垣間見ることができたため、この地域での活動を前へ進めていくことができると感じた。初めての訪問であったが、本事業をさらに進めていくための成果を残すことができ、今後の活動への弾みをつけることができた。

全体を通して、富成地区の皆さんを始め、関係者の皆さんのご協力の下、活動を展開することができた。また、本プロジェクトにとっては、これまでにない規模や充実した内容での活動を遂行することができた。まだ不十分なところもあるが、今後の本プロジェクトの活動や福島県、富成地区での活動をより一段と高める契機づくりになったのではないかと考えられる。

5.　富成地区活性化案について

本プロジェクトでは、今年度富成地区の皆さんと実施した活動を通じて、地域が抱える課

題や現状などについて発見することができた。それを受け、本プロジェクトでは、富成地区活性化案として、「富成地区の活力・魅力創出と交流人口の拡大を目指す三大企画」を提案する。具体的には、富成地区が抱える課題の解決や地域を活性化するために、主に 3 つのカテゴリーに分けて活動を展開していきたい。各カテゴリーの具体的な内容は下記のとおりである。

① <u>地域生活環境</u>

富成地区在住の皆さんを対象に、交流会・スマホ利活用教室などの開催を行う。また、地域におけるツタや藪の放置などによる景観の悪化を是正するため、景観保全活動を行う。なお、これらの活動を実施する際には、地域住民の皆さんが参加したいと思ってもらえるようなアプローチを取り、1 人でも多くの人がこれらの活動に参加しやすくなるような工夫も施す。

② <u>地域活力創出・交流人口拡大</u>

富成地区などの関係団体と連携し、地域を元気にし、活力と魅力にあふれると富成地区を目指すことを目的に、イベントや観光スポットなどの地域資源を活用した企画の開催を行う。すでに富成地区で開催されているばんかた市や富成芸術祭などへの協力や規模拡充なども検討する。

③ <u>魅力創出・PR 活動</u>

富成地区をより多くの人に知ってもらい、実際に訪れてもらうには、地域の魅力を発見し、発信することが欠かせない。そこで、富成地区のさらなる魅力の発見・創出を行い、PR 活動で発信できるようにする。また、本プロジェクトの活動拠点である東海大学湘南校舎および神奈川県平塚市を中心に、本プロジェクトが参加するイベントにおいて、富成地区の認知度向上と魅力発信などを目的とした活動を実施する。具体的には、富成地区についてのパンフレットや紹介資料等の作成、特産品販売などを行う。また、本プロジェクトが広報活動として利用している Twitter および Instagram といった SNS などのオンラインツールを活用し、富成地区についての広報活動を実施する。加えて、富成地区の食の PR として、ジェラートの開発、販売にも取り組む。ジェラートは富成地区で現在開発が進められているスイーツである。地元でとれるプラムなどを使用し、地元の食のおいしさや魅力を伝えようとしている。本プロジェクトでは、ジェラートの生産やパッケージデザインなどに協力するほか、イベントなどでのジェラート販売にも取り組む予定である。

6. 今後の取り組みについて

本プロジェクトでは、先ほど挙げた富成地区の活性化案の実施に向け、来年度、富成地区での実証活動に着手する予定である。今後の具体的な取り組みとしては下記にあるものに取り組んでいきたいと考えている。

・本事業の活動に参加する本プロジェクトメンバーの増員
・提案内容の実行に向けた活動の計画・準備・環境の整備
・富成地区などとの連携強化、活動の展開
・特に若者が富成地区に訪れたいと思ってもらえるような活動戦略の策定

来年度実施予定の実証活動は、本プロジェクト・富成地区にとっては大きな挑戦となる。提案内容を実行に移し、成果を上げることは大変な道のりとなり、時には困難に直面することもあると考えられる。本プロジェクト、富成地区の双方がこれからの未来に向け連携しながら多くの活動を展開し、この厳しい状況を打破し、元気と賑わいを取り戻し、新たなステージへの１歩を踏みだすことができるよう、全力を尽くしていきたい。